



『放牧地管理現地研修会』を開催しました

令和4年9月14日、奥羽牧場と青森県三八地域県民局と共催で『放牧地管理現地研修会』を開催しました。

本研修会は、放牧を利用した畜産経営の改善のため、放牧地の管理や放牧地で利用可能な牧草の新品種紹介を行うことを目的としており、県および農業団体等25名が参加しました。

昨年9月に既存放牧地に当場の簡易更新機（グレートプレーン）を使って追播したペレニアルライグラス「夏ごしペレ」とフェストロリウム「東北1号」の実証展示ほ場で、追播の概要説明や定着状況の確認、三戸牧野組合から放牧地の管理や電気牧柵利用についての説明をしました。

また、現地研修後は、東北農業研究センター藤森上席研究員による、嗜好性・越夏性に優れるペレニアルライグラスの新品種「夏ごしペレ」、青森県三八地域県民局伊藤主幹による、青森県における簡易更新・追播の取り組みについての紹介がありました。

参加者からは「実際の牧草の定着具合が確認出来て良かった。」「青森県でペレニアルライグラスを普及させたい。」といった感想やアンケート結果から高い理解度や満足度を得ることが出来ました。今後も地域の畜産に役立つような研修会を開催していきたいと考えています。



現地研修会

実証展示ほ場の概要説明



室内での研修会

新品種紹介、簡易更新・追播取組紹介